



ThreeBond



JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.7

RACE REPORT



FUJI SPEEDWAY



2020 最終戦

全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ最終戦が、12月19日～20日、静岡県富士スピードウェイで開催された。

富士スピードウェイは、ドライバーのタチアナ・カルデロン選手（以下、カルデロン選手）にとって、開幕前の3月に行われた合同テスト以来のコースである。

シリーズ第4戦以降、日本国内に滞在し続けているカルデロン選手は、改めて車載映像の確認やシミュレータでの練習など、予習を重ねてレースウィークに備えた。「タチアナ選手は、速く走るために、普段から何かをしないではいけないタイプなので、レーシングカートに乗せるなどを含め、いろいろな練習をさせました」と道上監督。

異例の12月中旬開催となった週末の富士スピードウェイは、気温、路面温度が共に低下し、非常に難しいコンディションとなった。

フリー走行

カルデロン選手は、12月19日(土)午前に行われたフリープラクティス1で快調にタイムを縮め20台中12番手、トップから1秒417 後れの1分22秒280を記録した。しかし気温、路温が急激に低下した午後のフリープラクティス2では、他車がタイムアップする中でタイム短縮ができず、トップから1秒410 後れの1分22秒118を記録するに留まり、20台中19番手に終わった。

「セッション前半は悪くない感じだったのですが、後半は路面温度が5度を切るまで急激に低下したせいか、タイムアタックのシミュレーションをするため2セット目のニュータイヤでコースインしたところ、『タイヤが変だ』と言って、タイムを出すことができませんでした。他のチームでも同様のことが起きていたようです」と伊与木仁エンジニアは状況を説明した。

公式予選

明けて12月20日(日)午前10時5分、カルデロン選手は公式予選Q1(Bグループ)に出走した。気温、路面温度とも上昇したためかマシンの状況はフリープラクティス2よりも改善されており、カルデロン選手はトップから0秒976 差の1分21秒674を記録した。しかしQ1突破には0秒476 足りず、このままスターティンググリッドは19番手に決まった。

予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#16 野尻 智紀 1'19.972
2	#39 坪井 翔 1'19.989
3	#5 山本 尚貴 1'20.155
19	#12 Tatiana Calderon 1'21.674



決勝レース

決勝レース前のウォームアップ走行で火災事故が発生したため、決勝レースのスタートは予定から 22 分遅れることとなった。

午後 2 時 47 分、フォーメーションラップがスタートした。ところがカルデロン選手は、ダミーグリッド上でギヤを入れることができず、走り出せなくなってしまった。マシンはそのままピットロードへ押し出され、全車がスタートした後、ピットから行われることとなった。

チームはトラブルの原因を探ろうとしたがスタート時刻も迫っていたので、後輪をジャッキアップして後輪に負荷がかからない状態でギヤを入れ、後輪を回転させたままジャッキダウンして緊急発進させることにした。

カルデロン選手は 2 度発進に失敗したが、スタートから 1 分 30 秒以上経過した段階で発進に成功、最後尾からピットアウトしてレースを始めることとなった。

ほぼ周回遅れでレースに加わったカルデロン選手だったが、走り始めると上位と遜色ないペースで走行し始めた。「レースでのペースには私も驚きました。あんなペースで走り始めると思わなかったので、もっとプッシュしろと指示しました。スタートでトラブルが発生したからもっとエキサイトしているかなと思いましたが、非常に冷静で『わかった』と答えてきました」と伊与木エンジニア。

カルデロン選手は 15 周終了時点でピットインし、2 セット目のタイヤに交換してレースに復帰すると、さらにペースを上げ 18 周目にはセクター 2 で途中経過ながら、全体のファステストラップを記録して周回を重ねた。このタイムは 38 周目にニック・キャシディ選手が更新するまで全体の最速だった。

スタートでの出遅れがあったためカルデロン選手は結局、1 周遅れの 17 位で完走、チェッカーフラッグを受けた。

今大会をもって 2020 シーズンは終了となるが、チーム・ドライバー共にスーパーフォーミュラ参戦初年度はノーポイントに終わった。悔しいシーズンであった反面、スーパーフォーミュラのレベルの高さ、ポイント奪取をはじめ、勝つことの難しさを痛感させられたシーズンであった。来年度、今年の経験を必ず活かしたい。



タチアナ選手コメント

富士スピードウェイは合同テストで走って以来でしたが、今大会はとても気温が低くてトラックコンディションも違ってれば、クルマの状態が合同テストの時より進歩していることもあって、ドライビングの感触が異なり驚きました。公式予選では自分では納得できる走りができたとと思います。結局 19 番手に終わってしまいましたが、クルマの状態はとても良く、自分のドライビングもうまくいったのでうれしい結果でもありました。スタートは、とても残念なことになってしまいました。結局ピットでクルマも持ち上げて走り出すという、今まで経験したことのない方法でレースに加わりました。残念ではありますがモータースポーツにはよくある話です。最初から大きく遅れてレースを始めることになったものの、レースではクルマの調子も良く、自分でも非常に良いドライビングができたと思います。残念だったのは最初から単独走行することになったので他のクルマとファイトできなかった点です。思っていたような結果を残すことができませんでしたが、チームはみんな良い人達ばかりで、すごく楽しい 1 年を過ごすことができました。



道上監督コメント

最終戦ということで期待していましたが、レース中のラップタイムが良かっただけに、しっかりスタートさせてあげられなかった点、タチアナ選手に非常に申し訳ないことをしました。でもタチアナ選手は『これがモータースポーツだから仕方がないよ。わたしは大丈夫よ』と言ってくれて、逆に励ましてもらいました。今年はコロナの影響で彼女は 2 度レースできなかつたり入国するために大変な思いをしたりして、日本で初めてレースするには練習の時間が足りませんでした。コースを習熟していればもっと違った結果になっていたと思います。でも今日のレースラップを見ていたら、あるときはセクターでトップに立っていましたし、アベレージでいけばトップ 10 に入れるようなペースで走っていて驚きました。1 年を振り返ると、我々に対する気遣いであつたり、ファンに対する振る舞いであつたりを見て、プロフェッショナルだなと感心することがすごく多かったです。彼女もこのカテゴリーが大好きになってくれて、日本のレースにも馴染んで、大勢の皆さんがファンになってくれましたし、できれば来年も彼女と一緒にレースがしたいと思っています。



伊与木エンジニアコメント

3 月から富士を走っていませんでしたが、しっかり準備をしたので割とすんなり走り出せました。フリープラクティス 1 で 12 番手という結果は充分です。午後はタイムが伸びませんでしたが、それでも僅差で続いていて充分戦えるだけのモノをつかんでいるように見えました。予選も僅差で、Q1 突破できなかったのが残念です。決勝のペースは本当に良かった。クルマは特に何かを変えたというわけではなかったのですが、彼女は自分の中に、まだまだ速くなる余力を持っていたのだと驚きました。足りない面もありますが、ここまでのポテンシャルを示す女性ドライバーは今まで見たことがありません。



		 DRINK RESPONSIBLY		
		 beyond the invisible		
 富士ゼロックス多摩株式会社				 KTEL RACE SERVICE
				 WORLD RACING PARTNER
		 Performance Parts		 SP AIR

レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	39	坪井翔	JMS P.MU/CERUMO・INGING	56'13.803
2	65	大湯都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	56'14.490
3	50	松下信治	Buzz Racing with B-Max	56'15.325
4	1	Nick Cassidy	VANTELIN TEAM TOM'S	56'16.071
5	5	山本尚貴	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	56'20.164
6	20	平川亮	ITOCU ENEX TEAM IMPUL	56'21.353
7	15	笹原右京	TEAM MUGEN	56'22.344
8	4	Sacha Fenestraz	KONDO RACING	56'38.540
9	36	中嶋一貴	VANTELIN TEAM TOM'S	56'39.163
10	3	山下健太	KONDO RACING	56'39.588
11	7	小林可夢偉	carrozzeria Team KCMG	56'43.372
12	38	石浦宏明	JMS P.MU/CERUMO・INGING	56'44.299
13	64	大津弘樹	TCS NAKAJIMA RACING	56'44.769
14	14	大嶋和也	ROOKIE Racing	56'54.296
15	18	国本雄資	carrozzeria Team KCMG	56'55.122
16	6	福住仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	57'17.746
17	12	Tatiana Calderon	ThreeBond Drago CORSE	57'31.780
	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	—
	19	関口雄飛	ITOCU ENEX TEAM IMPUL	—
	51	Charles Milesi	Buzz Racing with B-Max	—



Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				もてぎ	岡山	SUGO	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士
1	山本尚貴	62	62	0	5	11	1+5	3+20	0	1+6
2	平川亮	60	60	3+20	3+8	2+15	0	0	4	5
3	坪井翔	50	50	0	20	0	0	0	8	2+20
4	Nick Cassidy	57	50	5	11	20	4	6	3(QF)	8
5	野尻智紀	51	47	4	1	8	3+20	2+4	6	3(QF)
6	大湯 都史樹	41	41	0	0	0	1	3	2+20	15
7	山下健太	35	34	1+15	-	5	6	2	5	1
8	福住仁嶺	30	29	6	3	1	2+2	1(QF)	15	0
9	国本雄資	29	29	0	4	6	8	11	0	0
10	石浦宏明	27	27	3	15	3	0	5	1	0
⋮										
	Tatiana Calderon			0	-	-	0	0	0	0

*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

Team Ranking

順位	チーム	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				もてぎ	岡山	SUGO	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士
1	VANTELIN TEAM TOM'S	84	77	13	13	20	7	21	0	10
2	JMS P.MU/CERUMO・INGING	75	72	3	355	3	0	5	9	20
3	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	84	72	6	8	12	17	20	15	6
4	ITOCU ENEX TEAM IMPUL	69	69	20	14	15	0	0	15	5
5	TCS NAKAJIMA RACING	59	57	2	0	4	12	3	23	15
6	KONDO RACING	49	46	26	0	5	6	3	5	4
7	TEAM MUGEN	47	42	4	1	8	20	4	6	4
8	carrozzeria Team KCMG	37	37	0	4	6	8	19	0	0
⋮										
12	ThreeBond Drago CORSE	0	0	0	0	0	0	0	0	0